

コンテスト



年 組 ()

サエの将来のゆめは、世界で活やくするピアニストになることだ。自分のひいているピアノで、1人でも多くの人を勇気づけられたら——。と考えている。

特に、今度のコンクールは重要だ。県大会で優勝できたので、今度は全国大会だ。全国大会で金賞をとれば、国際大会に出場できる。そうすれば、ゆめにまで見ていた世界への道が開けるのだ。

「サエ、がんばっておくれや。おまえががんばるすがたを見るのが、私は一番好きなんだよ。」

サエのおばあちゃんは、いつもサエをおうえんしてくれていた。おばあちゃんは、練習の合間にもお茶を入れてくれたり、おかしを運んでくれたり、何かと気遣ってくれる。

「おばあちゃんのためにも、絶対金賞をとりたい！」

サエは、ますます練習にはげんだ。

コンクール1週間前になった日のことだった。

おばあちゃんが突然倒れてしまった。意識がもどらなくて、すぐに手術が必要とのことだった。お医者さんは言った。

「もしかすると、これが最期になるかもしれません。」

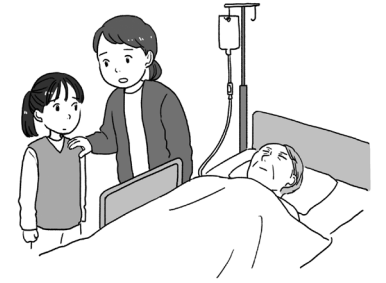
手術は、コンクール当日に行われることになった。お母さ

んは、サエのかたに手を置いて言った。

「サエは、コンクールに行きなさい。お母さんたちが、おばあちゃんに付きそうから。」

「でも——。おばあちゃんに会えるのは、最期になるかもしれないんだよ。」

「たしかに、コンクールは何回もある。けど、また全国大会まで勝ち上がれるとはかぎらないじゃないの。」



サエは、おばあちゃんの前にいるべきでしょうか。それとも、コンクールに出場するべきでしょうか。あなたの考えと理由を書きましょう。

.....

.....

話し合っ考えたことを書きましょう。

.....

.....